

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第 51 号
平成 24 年 7 月
生涯学習課文化財係



地域と戦争

展示期間
平成 24 年 7 月 4 日(水)～9 月 30 日(日)
※期間中は、展示史料の変更を行う予定

昭和 6 年(1931)の満州事変に始まる中国での戦線拡大につれ、村の日常生活は、しだいに戦争の影響を受けるようになりました。それとともに学校も、戦争体制を支える場としての役割を増していきます。今回の展示では、そのようすを神足小学校が発行していた『神足月報』や当時の写真を通じて紹介します。



戦争の浸透と学校行事

昭和 12 年(1937)の日中戦争開始直後、政府は、^{きよこくいっち}拳国一致による戦争への協力を目的とした「国民精神総動員実施要綱」を制定しました。

これをうけて学校も、村や青年団などの組織とともに、戦争体制を支える重要な役割を担うこととなります。

その一環として、神社・天皇陵への参拝、出征兵士の見送り、^{えいれい}英霊・^{しょうい}傷痍軍人の出迎え、戦死者への墓参、ラジオ体操、勤労奉仕など、さまざまな行事が行われました。



勤労奉仕校門出発
(昭和 14 年 6 月、神足小学校所蔵資料)

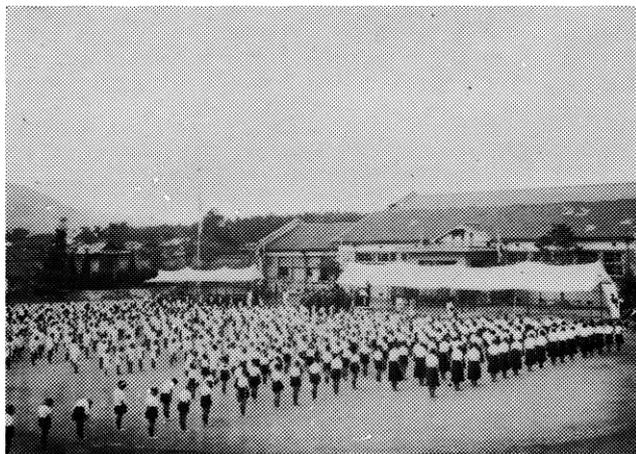
学校では勤労奉仕団を編成し、月に 1 度、寺社・道路の清掃や、農作業の手伝いを行いました。



国民学校の設置

昭和 15 年(1940) 9 月に日独伊三国同盟が結ばれ、昭和 16 年(1941) 12 月になると、日本はアメリカとの開戦に踏み切ります。

そのようななか、6 年制の義務教育であった尋常小学校は、国民学校令に基づき昭和 16 年 4 月に国民学校へと改組されました。その狙いは、戦時の基礎教育を徹底することで、将来の兵士を育て、戦争体制を固めることにありました。



日独伊三国同盟締結記念祝賀式典
(『神足月報』昭和 15 年 9 月号より)



『神足月報』に見る学校生活

『神足月報』は「月報をして村発展の
らしんばん羅針盤たらしめん」と、昭和 10 年（1935）から昭和 16 年（1941）にかけて神足小学校の教師によって編集された地域新聞です。

毎月、新神足村全戸と戦地にいる地元出身の兵士のもとに無償配布され、主に神足小学校や新神足村役場、各種団体の活動などが報告されました。記事の内容から、しだいに学校や村の生活が戦争色で染められていくようすを知ることができます。



『神足月報』（教育委員会所蔵）



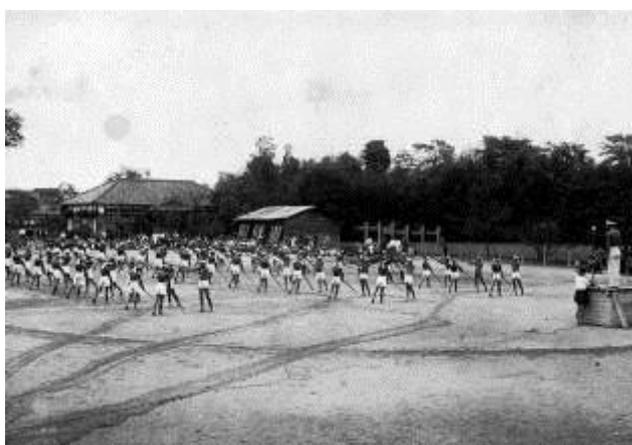
神足小学校勤労奉仕団による勤労奉仕
(昭和 15 年ごろ、神足小学校所蔵)

農繁期には働き手のいない農家へ赴き、稲の害虫取りや作物の収穫など、農作業を手伝いました。



長岡天満宮での出征兵士武運長久祈願
(昭和 15 年ごろ、神足小学校所蔵)

毎月 1 日と 25 日に、長岡天満宮に参拝した後、境内の清掃奉仕を行います。



秋季村民体育大会、5・6 年児童による武道
(昭和 15 年、神足小学校所蔵)

戦時下、国家使命に応ずべき資質を養うことを目的に体育・運動が奨励されました。



遺家族慰安会 ～軍国の乙女～
(昭和 15 年ごろ、神足小学校所蔵)

出征兵士の留守家族や遺族を慰安するための演芸会での一幕。戦争色の濃い演目が行われました。